

グループホーム たんぽぽの家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	事業所の理念として「1. 地域に根ざしたサービス提供、2. 心にやさしいサービス提供、3. きめ細やかなサービス提供」とし、地域の中でその人らしく暮らしていただけるよう支援している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後とも職員一同 法人・ホームの運営理念を日々の業務に取り入れ、安心して利用者が暮らしていけるように実践していきたい。
	ホーム内の目に留まりやすいところに、明示している。定例会では、常に理念を念頭におき、業務に取り組むよう、指導徹底している。 より見やすい場所に額の付け替えをおこなった。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	面会や地域の方々とのふれあいの場で堅苦しくならないよう、会話の中で伝わるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	入居者との散歩など外出時には積極的に地域の方へ声をかけるようにしている。 ホーム内での行事にも声かけ、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の様々な行事に参加してきたが、今後もさらに参加のし、地域の一員として協力できることを見つけていきたい。
	地域の行事には、できるだけ参加するよう努めており、地域の方から気軽に声を掛けていただけるようになっている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で民生委員や地域の方に一人暮らしや認知症で困っている方がいないか、話し合ったりしている。また、そういった方に花見の参加を呼びかけたりしたが、参加はしなかったが、来年も声かけを継続していきたい。		さらに、より地域の方との交流ができるよう積極的に広報活動にも取り組んで参ります。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果について、定例会で改善策を検討し、評価を受けることでより良いサービス、質の向上につまがるよう努めている。		毎年の外部評価および自己評価をもとに更なる業務改善に取り組んで参ります。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の入退院、退居についての経過、ケアについて報告を行い、地域の方や市町村担当の方から意見を聞き、サービス向上につなげている。 今年より長寿会会長などが参加していただき、幅広い意見を頂き、交流している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	夏祭りや花見等、ホームの行事に参加の声かけをしているが、まだ参加はない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおり定例会で、定期的に研修をおこなって、全職員が理解している。また運営推進会議で後見人に地域の方へ後見制度について話してもらい、地域の方にも知ってもらった。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外でのけんしゅうの参加を促がすとともに、休憩時間等、職員の話しを聞く時間を作り、職員がストレスを一人でも抱え込まないよう、気をつけている。また、利用者の身体にアザを発見した時は、その都度記録に残し、虐待を見過ごすことがないように努めている。		記録とともに、人体図にて発見年月日、アザ、傷の状態を図で残している。

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者と家族の不安、疑問点について説明するとともに、退居についての説明も文書で十分に説明している。解約時は、退居後のことも相談に応じている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情については、記録に残し、定例会で話し合い、改善するよう取り組んでいる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、金銭出納帳を見てもらい、利用者の状態についても、報告している。また、足が遠のいている家族には、電話で連絡をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置しているが、いまだに利用はないため、面会時は積極的に声をかけ、家族の意見を聞き出すよう努めている。また、それを記録し、定例会で話し合っている。</p>		<p>気軽に持ち帰って投書できるように対応しています。また、ご家族へ送る「便り」の中へ同封して投函できるようにしています。苦情については、運営推進会議および定例会にて報告を行い、苦情に対する改善措置を講じていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々、介護保険状況が繰り返し変わりつつある中、職員からの質問や要望など納得がいくよう説明する時間を作っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の個別の外出希望や病院への受診など時は、職員の勤務を調整し、人員を確保している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職は少ないが、馴染みの職員が退職する場合は、本人より理由を説明してもらっている。新任の職員については、必ず馴染みの職員が間に入ってコミュニケーションを図っている。</p>		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員採用については、資格以外は特に制限していない。採用後は本人の働きやすい環境作りを整えるよう心がけており、管理者として業務中の状況を見守りながら、ストレスが蓄積しないように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育については、職員全員が共有するものとの観点に立ち、必ず外部研修へ参加し、定例会で研修内容を報告し、全員に周知徹底している。また、不参加の職員については定例会議のノートを閲覧するなどして、研修の漏れがない様に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市や社会福祉協議会・グループホーム協議会などの研修計画を参考に年間計画を立て、各テーマについて職員が参加できるように取り組んでいる。新任の職員についても安心して参加できるように現任の職員と共に参加できるようなシステムにしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し、勉強会などに参加している。研修終了後に他のグループホームの見学を行ったり、ホーム同士の交流を高めることでサービスの質の向上に努め、職員の育成などの面で大きな成果を得ている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々の業務の中で、管理者や職員がストレスを溜めない様、運営者ができる限り職員に声かけをし、疑問点、問題点などを聞いてあげる時間を持つように工夫している。また、勤務時間帯についても、皆で話し合い無理のないように勤務できる状況を作るようにアドバイスするなどに努めている。</p>		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ほぼ毎日、ホームに寄り、管理者および職員の勤務状況を把握し、また、各自の意見・要望・改善策等に耳を傾け、できる限り要望に応えられるよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所までの面談では、家族とは別に本人と管理者がゆっくり話しを聞く時間を作り、何でも気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談では、何度か面談の機会を作り、何でも気軽に相談できるよう努めている。 即答できない事に対しては、後日必ず伝えるようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、当ホームでは対応が困難な時や他のサービスが適切な時は、他のサービスの情報の提供をしたり、相談に応じるよう努めている。また、本人と家族にとって一番良いサービスは何がグループホームとして適切か、見極めるようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、いつでも気軽にホームに来て頂けるよう、本人および家族へ声かけし、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう援助している。		
の				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理作りや掃除他、日常生活に行うときは「一緒にすること」を心がけ、「教えてもらう」よう声かけにも、気配りをしている。また、何かを達成したときは、必ず声をかけ、共に喜び、悲しみや怒りがある時は、そっと寄り添うよう心がけている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、行事参加の声かけを行い、なるべく利用者と一緒にいる時間を作って頂けるよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者からの「家族と会いたい」と話があった時や家族の足が遠のいている時等、家族へ連絡し、本人の希望を伝えるとともに、家族の状況や都合なども聞くようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生活していた場所への外出や連絡の援助をしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者のその日の体調や精神状態を見ながら、他者とのコミュニケーションがとれるよう援助している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した方には定期的に見舞いに行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや言葉を大切にし、記録に残し、希望が叶う様、職員間で話し合いをもったり、ホーム内では対応困難な場合は、外部のサービス利用も行っている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の気持ちシート」または個人ノートを継続し、その人らしく、生活してもらえよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者、家族との会話を密に行い、個人の意思を尊重する事を常に心がけている。また、日常的に訴えの少ない入居者については、日々の講堂や表情から気持ちを汲み取るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・医療関係者、介護職員など様々な角度からの意見を取り入れ、少しでも本人の日常生活が安心し満足できるように日々、変化を見逃さないよう、毎日の業務で確認するようにしている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即したサービスを行う為に、日々の変化を詳細に記録に残し、本人・家族・医療関係者とも密に連絡を取り合っている。入居者の変化に対応した介護計画を作成する為に、随時、サービス担当者会議を実施し、計画の見直しをおこなっている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の暮らしぶりの中で、気づきや工夫があれば、個別介護記録に残し、また、申し送りノートにて、介護者全員に情報が行き渡る様に徹底するとともに、定例会でも話し合いの場として皆で検討し、サービスに活かせる様に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じ、外出支援時、場合により遠方の知人を訪ねる際などは、介護タクシーを利用したり、ボランティア、民生委員、学生さん等の協力を得ており、また、玄関に気軽に相談して下さる様、ポスターを貼り、近隣の方の相談や電話相談にも応じている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、高等学校の先生と生徒さんと連絡を取り、定期的に地域の方と利用者が接する機会を設けている。警察、消防とも連携を図り、意見を聞きながら、消防訓練等を実施したり、利用者が安全に生活ができるように努めている。警察にも家族などの同意を得て、利用者の情報を伝えている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族からの意見を聞き、必要に応じて、他事業所等の意見交換を行い、必要に応じて介護タクシーを利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	電話連絡や運営推進会議で情報交換したり、必要時に相談している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医をひとまとめにせず、各利用者に適切な医療を受けられるよう、それぞれに合ったかかりつけ医を選んでもらっている。泌尿科疾患のある利用者は総合病院への受診を援助している。必要時には、主治医に相談の上、他の千問病院への受診を援助している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	比較的、病状は落ち着かれているため、現状では、主治医との連携を図っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者に変化があった時は、かかりつけ病院の看護師へ電話連絡し、相談して助言を受けている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>ソーシャルワーカーとの連携を図り、情報の共有に努めて、担当者会議につなげている。また、再々の面会にて当人や担当看護師からの情報の把握に努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族へ意向を聞き、文書にしてある。最近、重度化した入居者の終末期について、ホーム職員間、また、かかりつけ医と話し合いをしたが、病状的に病院での対応が必要という意見があり、退居となった。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今、現状ではかかりつけ医のホームでの終末期ケアへの協力は難しく、今後も繰り返し、医師と話し合っていく必要があると思われる。また、ターミナルケアに対応可能な医院を探すことも考えている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>			
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけは語尾が強くないよう、注意を促している。また、他者に聞かれたくないであろう話をする時や、難聴の利用者には筆談をしたり、居室で話したりしている。記録などの管理については、細心の注意を払い、入居者の個人情報を他言しないよう厳しく指導している。</p>		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の会話の中から、「どうしたい、何がしたいか」を導き出し、思いが叶うように、個別の援助ができるよう努力している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の入居者の体調、気分に合わせて、散歩や外出、入浴を調整したり、本人の希望に合わせて、ホームでゆっくりと過ごしてもらえよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の理髪店からホームへ来てもらい、散髪をしてもらっている。ご夫婦で来てくださっており、入居者とも顔なじみになっている為、他の店への援助はしていない。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、食器やお盆拭き等、職員と一緒に手伝ってもらっている。また、近所のやおやに入居者と一緒に買い物に行くこともあり、「今日は何を作るうか」と一緒に考えてもらったりしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草を吸う男性入居者には玄関ホールで喫煙できるようにしている。また、オロナミンCが好きな方やコーヒーが好きな方、それぞれ購入して頂き、いつでも好きな物が飲んだり、食べたりできるよう援助している。		
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗はおむつの使用とせず、一人一人の排泄パターンを把握し、失敗する前にトイレで排泄できるよう、声かけ誘導をしている。また、必要に応じて介助している。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を決めているが、入居者の希望にも随時、対応している。また、排泄の失敗があった時にも入浴介助し、皮膚の清潔が保てるよう援助している。ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう、本人の好みの湯温の調整や入浴の順番にも気配りをあいている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	移動が自立している利用者には、基本的に自由に居室で休んでもらっている。移動が介助がいる利用者や自分で休もうとしない方には、体調や気分を見ながら、臥床し休息をとる時間を作るよう援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関の花の水遣りや洗濯物たたみ、料理の下ごしらえや各自、得意とすることを手伝ってもらい、役割をもってもらえるよう支援している。また、生活歴を活かし、習字の先生をしていた方には、習字、銀行に勤めていた方には、計算プリント等を用意し、好みのレクリエーションができるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員ではないが、管理できる方は、自分でお金を持ち、希望に応じて買い物の付き添いを支援している。また、自分で管理していない方についても、買い物ツアーを企画し、買い物を楽しんでもらえるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、散歩の声かけをし、前の公園へ出掛けている。近所の方とも顔見知りになり、気軽に声をかけてもらえるようになった。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の住んでいた家や地域に行ったり、知人に会いに行ったり、個別の外出の支援をしている。また、入院している夫の見舞いや妻の外出の支援を行っている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった時は、家族や知人へ電話できるよう支援している。また、年賀状を家族や知人宛に送れるよう、年賀状作りをレクリエーションとして行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限等せず、いつでも気軽に訪問して頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのケアカンファ、月1回ごとに状況をまとめ、拘束を必要とする場合も、身体拘束しないケアにどう近づけるか、皆で話し合い、会議の場を持ち、また、家族の説明も毎月行っており、身体拘束ゼロ、事故防止に努め、6月に身体拘束ゼロとなった。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、庭に面した窓の施錠をせず、散歩、庭での洗濯物干し、草木観賞など、本人の行動の自由を尊重できる様に取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに1時間毎の所在確認また、本人の状況等に配慮し、日中の臥床時は15分毎～30分毎に居室の見守りを行っている。足元にコールを設置し、動きがあった場合は必ず訪室を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の使い慣れた物を使用して頂いている。転倒の危険が高い利用者に対しては、仏壇や筆筒の角を保護したりして対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人に対して、危険性のある場合に限らず、定期的に会議、研修等での知識を生かし、皆で情報を提供し合い、常に事故防止に努めている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、初期対応については、定期的に話し合いの場を持ち、備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方も参加してもらい、避難訓練を行い、災害時に素早く、人命救助を行える様に努めており、近隣の方の協力、理解も得ている。 通常は職員連絡網と緊急連絡網で連携を図り、協力している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の日常の行動から日々、起きうる危険を家族に蜜に説明を行っている。事故なくまた、抑圧感のない暮らしを職員間で話し合い、家族に日々の状況の説明を行い、理解を得る様努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の個人記録に細かく記録を残し、また、口頭での申し送りとノートにての申し送りにて職員間での情報が漏れないようにしており、異変時は速やかに医療機関との連携、家族への連絡を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用、用法、用量については、理解しており、また、服薬表にて、個別にわかりやすくしており、いつでも確認できるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ケース会議にて便秘についての予防、対応を話し合い、腹部マッサージ、野菜類を多く取り入れたり、水分補給等で、できるだけ対応している。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけや介助を行い、定期的な歯科医の往診を受けている。虫歯のある利用者は通院の援助を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量を把握し、場合により、食事量の減少が見られる際等、補助食品で補ったり、常に一人一人の栄養、水分量に目を配っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症に対して、予防、対応マニュアルを作成しており、流行時等に関わらず、日頃から予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、消毒、高温処理を行い、衛生面、食中毒予防に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	催し物がある際等、玄関に近隣の方の参加をポスターにてお知らせしたりしている。近所の子供も気軽に遊びに来る事が多く見られる。 毎食前の手洗い、うがい、外出し帰所後、手洗い、うがいの実施。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光に配慮し、希望に応じた飾りつけなどで四季を感じて頂けるようにしている。		

グループホーム たんぽぽの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール横のソファや、げんかん、廊下にベンチを置き、独りになられたり、気の合ったもの同士で過ごしてもらえるように工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今まで使っていた布団や家具等、持ち込みの制限はせず、また、本人の希望によってベッドや家具の位置等、決めている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決め、日に何度か換気を行っている。ホールには、室温、湿度計を置き、空調を常に心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下に手触りの良い木の手摺り、自由に庭へ出られるように植木の手入れ、草取りを定期的に行っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人その人のわかる力に合わせて、日々のレクリエーションや生活リハを援助している。また、させっぱなしにせず、職員が声かけ、見守りをさりげなく行うようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、ベランダには鍵をかけず、職員と一緒に、洗濯物干しや草むしり、散歩ができるようにしている。		

グループホーム たんぽぽの家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム たんぽぽの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ホーム内で閉じこもりにならないよう、外出する機会（日々の散歩や行楽、ドライブ等）をなるべく多くつくれるようにしている。また、集団での外出だけでなく、個別に、昔住んでいた場所や、通っていた場所の外出援助も行っている。
- ・ホールに、毎月、利用者や職員と一緒に、四季を感じる貼り絵を作成し、貼っている。
- ・職員とのコミュニケーションはもとより、外部からの援助者を公募するなどの取り組みをし、新鮮な雰囲気、活性に繋げていきたいと思っている。